

泉社長の植田佳宏さん(53) 高松市栗林町は振り返る。
 この年、祖父が開業したホテルに転職した。地域の同業者にあいさつ回りをす

乗り出した。

したからだ。

が就航し、外国人観光客は

らの移住者も増えてきた。

外国人客の誘致実る

「地域づくりに貢献できて、いるようで幸せを感じる」。その言葉に充実感があふれていた。(檀本恵)

毎週金曜に掲載

夏休みに子ども食堂

23日から8月末の平日開設

に無料で食事を提供する「子ども食堂」を同市昭和町3の県労働福祉会館で開く。9月以降は平日の夕方に実施する方針で、常設されれば県内初となる。

障害者の就労支援を目的にレストランを運営している徳島市のNPO法人「Creer(クレエール)」が、23日から8月末までの平日、高校生までの子ども

子どもに夏休みの居場所を提供することも、障害者福祉への理解を深めてもらうのが狙い。午後1〜3時に開き、ランチ用に作った日替わり弁当(400円と550円)を提供。弁当が足りない場合は別の料理を作る。大人は1人500円。弁当や料理の持ち帰りはできない。食後は夏休みの宿題をするなどして過ごしてもらおう。清掃や調理補助の就業体験も受け付け、けがなどのトラブルに備えて保険にも加入する。14日に試験

ボランティアや寄付募る

的に開いたところ、子どもや地域住民、障害者施設の利用者ら約40人が訪れた。クレエールは、NPO法人フードバンクとくしまが2016年8月から月1回開いている子ども食堂に、場所を提供するなどして関わってきた。ただ月1回の開催では認知度が高まらないため、運営主体となって毎日開き、気軽に利用できるようにした。

食材の提供や運営資金の寄付、子どもに勉強を教えたり、交流したりする学生や高齢者

のボランティアを募ろう」と話している。原田昭仁理事 問い合わせはクレエール(遊びに来るつもりで立ち寄ってほしい)4(5205)(平日午。一緒に昼食を食べ 後1〜5時)。(新居和人)



クレエールが14日に試験的に開いた子ども食堂。徳島市昭和町3。

休耕田にヒマワリ“大輪”

市場 1万5000本が見頃



阿波市市場町日開谷の県道津田川島線沿いの休耕田12万所、約1万5千本のヒマワリが見頃を迎えている。今月下旬まで。



地元農家の団体「中山間地域大影集落」の会員10人が5月上旬に種をまき、約70日で育てている。担い手不足による休耕田の増加で植え付ける面積は年々増えているという。古本義春会長(67)同市市場町大影は

カヌー教室や早明浦ダム(高知県)の見学会などの様子も紹介。2018年度の体験講座の案内や申込用紙も置いている。問い合わせは県流域水管理課(電